

## 人さまの支えに感謝。 次は私がその役を。

函館教会 森竹杏寿香さん

森竹さんの三男は、先天性四肢障害で右手首の先がない。生まれた当初、将来が心配で親として様々な葛藤を抱えたが、仏教の研修で「子どもを信じて、念じて育てる」という学びを得て、やさしい夫と共にたくさんの愛情をかけて育ててきた。小学4年生となった現在は、地元の少年野球チームで右手のハンディも問題にせず、持ち前の明るさでムードメーカーとして活躍している。このようにのびやかに成長してこられたのは、周囲の人が分け隔てなく受け入れてくれたおかげと感謝している。そして、三男がボタンをはめられた、靴ひもを結べた、自転車に乗れた……インターネットに綴ってきた成長記録は、我が子の障害に悩む親御さんたちに感動を与え、勇気づけている。それは、「これまで私たち親子が多くの人に支えられてきたように、次は私がその役を担う番」という森竹さんの感謝のしるしである。



## 各自の感謝のしるし——持戒じかい

ろくはらみつ  
六波羅蜜に、菩薩の実徳じつとく目の一つとして「持戒」が教えられていきます。「戒いまいめを持つ」と書きますが、原語の「シーラ」の意味は、「良い習慣を身につける」ということです。

あるロボット工学の先生は、一人ひとり顔が違うように、「くせや持ち合わせておられる弱点もことなるであろうから、戒いまいも各人それぞれに違ったものになるはず」とおっしゃっています。つまり、自分だけの、いわばオーダーメイドの「よい習慣」持戒を見つけて実践することが大事だということでしょう。

そこで、いまの自分に必要だと思ふ習慣を考えてみましょう。たとえば、遅刻ちかくが多くて人に迷惑をかけるがちな人は、約束の五分でも十分でも先に着くようにする。また、つい短気を起こしてしまう人は、その瞬間に「おんにこにこはらたつまいぞや、そわか」の真言しんごんを唱えてひと呼吸入れる習慣が、まわりを不快にしないことに役立つのではないかと思います。もちろん、人それぞれに異なるこうした「持戒」は、見方によつては生活規範きはんやマナーともいえますが、単なるマナーと違うのは、実践する一人ひとりの心に「おかげさま」への感謝と、みんな仲よく幸せにといい祈りや願いがあることです。周囲に調和をもたらすその利他りたの心が、自分も喜びを味わう自利じりへと結ばれる菩薩の精進しょうじんとなるのです。

# 立正佼成会